

桂坂だより 特別号

学校生活について(ふりかえり) アンケート結果【後期】

email:katsurazaka-s@edu.city.kyoto.jp

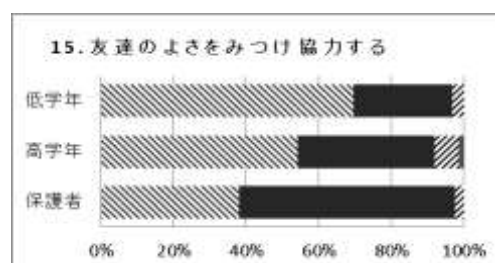
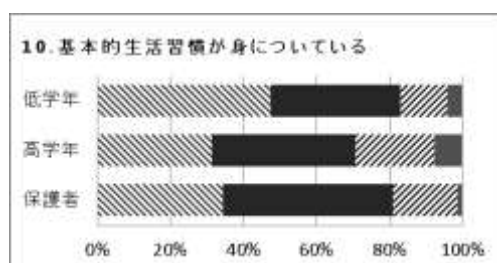
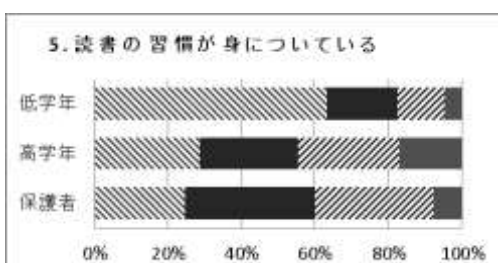
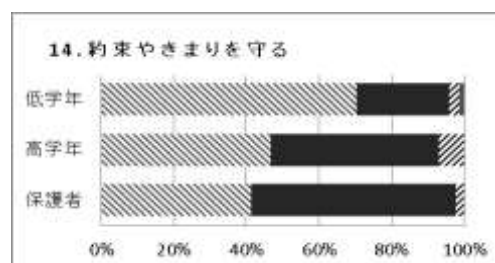
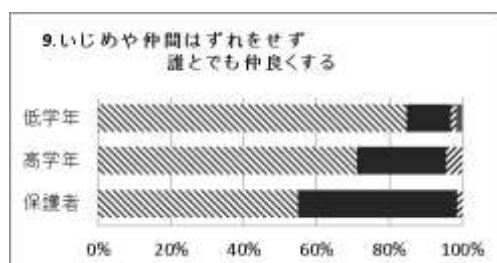
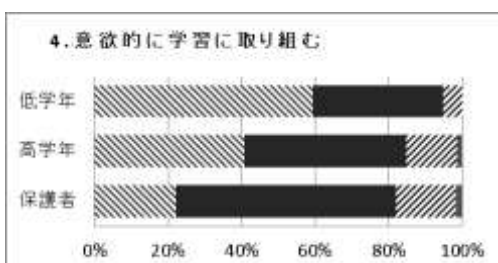
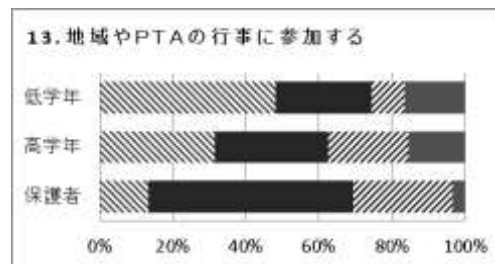
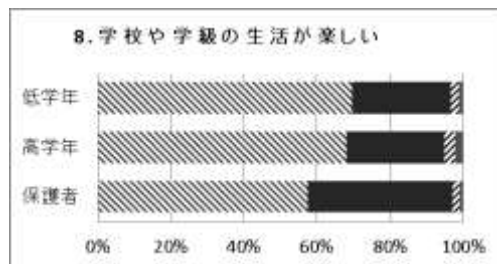
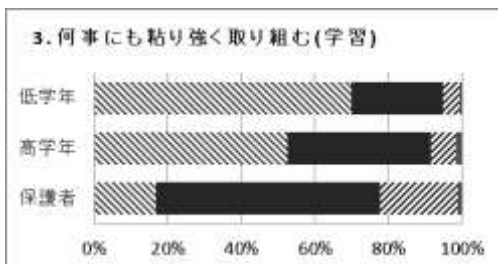
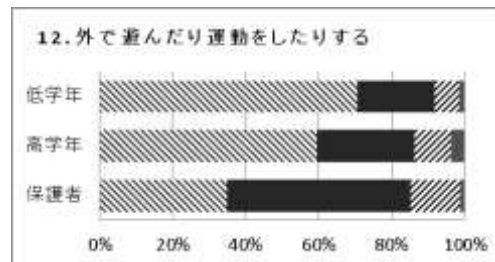
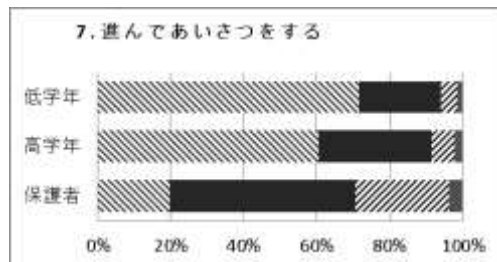
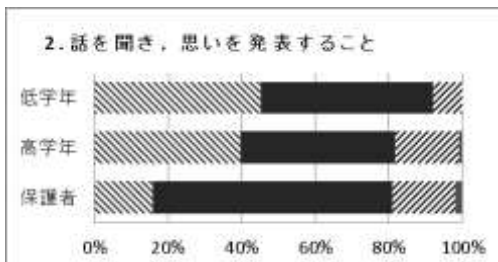
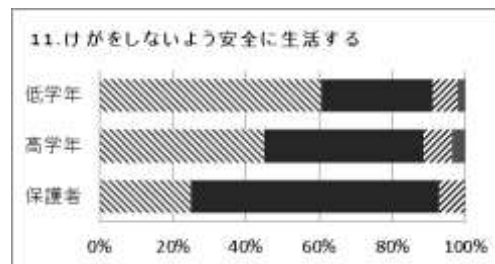
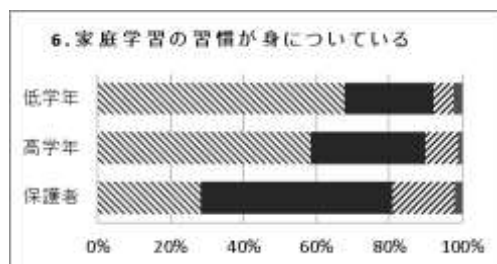
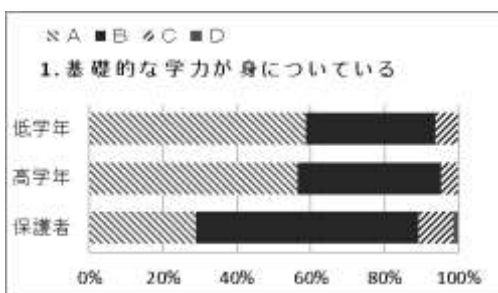
平成30年3月14日
京都市立桂坂小学校
校長 若松 美里
TEL 333-1101
FAX 333-1102

お忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



★児童・保護者アンケートより

A：よくできている B：大体できている C：あまりできていない D：できていない



【児童・保護者アンケート結果から】

前期のアンケート結果で注目し、重点的に取り組んだ以下の3つの項目について、全教職員で話し合いをしました。

★あいさつ 「子どもたちと課題の共有を！」

「7. 進んであいさつをする」については、

- ・道徳や学級活動の時間を利用して、他者の気持ちを考える機会を持つ。
- ・家庭や地域と連携しながら、大人が手本となりあいさつの大切さを伝える。

を取り組んできました。

前期のアンケートと比べると保護者の肯定的な回答が増えました。しかし、場所や相手が変わるとあいさつができない姿が見られます。今年度の取組を継続しつつ、児童会活動などを通して子どもたち自身がこの課題に向き合う取組を進めていきたいと考えています。

★基礎的な学力の定着 「子どもの困りに気付く目を！」

「1. 基礎的な学力が身についている」については、

- ・スキルタイムや家庭学習の内容を見直し、改善する。
- ・国語科や総合的な学習の時間を軸につなぐりのある学習を展開する。

を取り組んできました。

前期のアンケートと比べても、大きな変化は見られませんでした。しかし、教職員からは「否定的な回答をしている子どもたちが気になる。」「定着の差に応じて個別に指導したい。」などの意見がでました。放課後や夏休みに機会を設けて、子どもたちの困り感付き、積極的に支援する体制を整えたいです。

★読書習慣 「本の魅力を伝える取組の継続・充実を！」

「5. 読書の習慣が身についている」については、

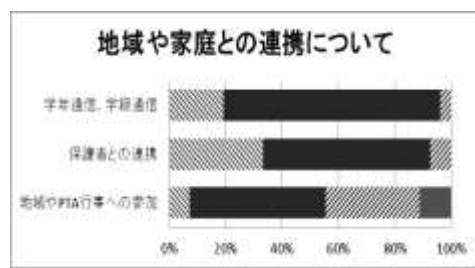
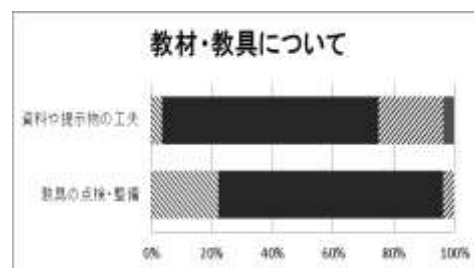
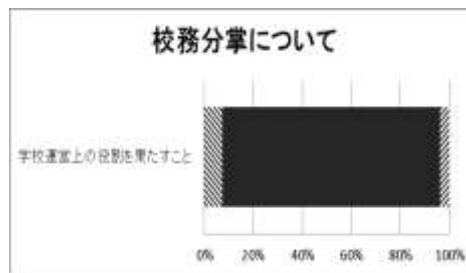
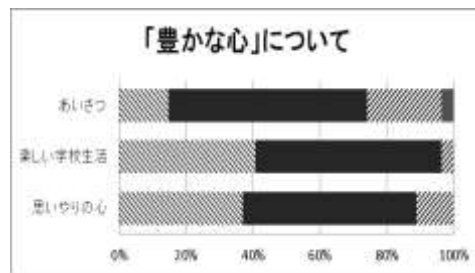
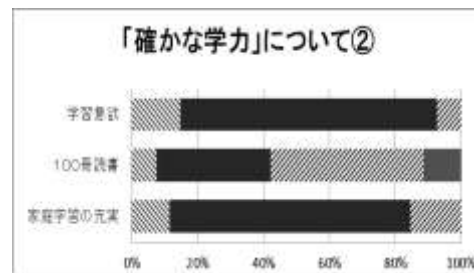
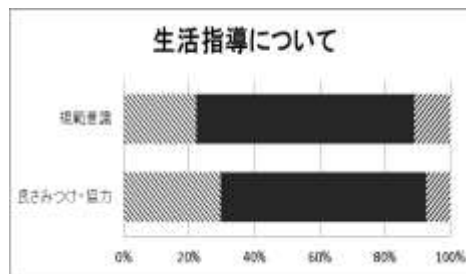
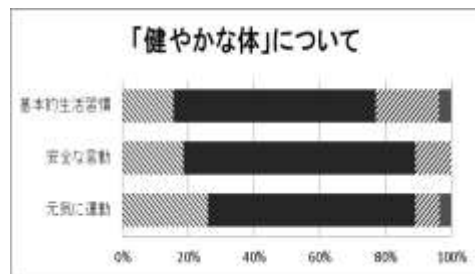
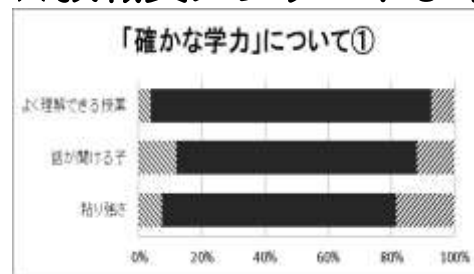
- ・子どもたちが気軽に利用できるように、図書室利用の授業を行う。
- ・図書だよりを活用して、本に興味関心をもてるようにする。
- ・学校と家庭が連携して、子どもたちが読書する時間を確保する。

を取り組んできました。

前期アンケートと比べると低学年の子どもたちの肯定的回答が増加しているのに対して、高学年の子どもたちの肯定的回答が減少していました。読書ができる環境を整えるとともに、高学年でも教職員や地域の方のブックトークの機会を増やして、読書の魅力を伝える取組を進めていきたいです。

★教職員アンケートより

A：よくできている B：大体できている C：あまりできていない D：できていない



【教職員アンケートの結果から】

教職員は、保護者・児童のアンケート結果を受けて、自己の取組の成果と課題を考察・分析した上で自己評価アンケートを実施しました。

★「100冊読書の意識を高揚させ、読書量を増やすこと」

については、教職員の6割があまりできていなかったという意識をもっています。読書ノートを活用したり、ブックトークを行ったりして、読書を楽しむ子どもたちを増やしていきたいです。

★「友だち同士・教職員・地域の人に進んであいさつができるようにすること」

については、7割の教職員が肯定的な回答をしています。地域の方からも「道で出会った時にあいさつしてくれました。」といううれしい声もいただいています。来年度は、子どもたち自身にあいさつの大切さとその意味を考え、自ら行動することができる場をつくりたいです。

来年度は重点的に取り組むことを絞り、
子どもたち・保護者・教職員のやる気を高める（エンパワーメント）学校評価へ。

★3月6日（火）第3回学校運営協議会（PKF：プロジェクト・カザラッカ・フォレスト）より

学校評価「保護者・児童・教職員アンケート」の結果を受けて、学校運営協議会（PKF）で話し合いを行いました。

「子どもも大人もゆとりが必要では？」

学習内容の増加で、学習への意欲低下を招いてはいけません。

★改善に向けて⇒

- ・取組や行事の意味を再考し、関連性を高める。
- ・地域の教育力を学校教育に活かす。

「学校を地域住民に知ってもらうことが大切。」

地域やPTA行事への参加をさらに増やしたい。

★改善に向けて⇒

- ・学校は積極的な情報発信を行う。
- ・地域住民は学校の様子に関心をもつ。

「子どもたちはどんな本がすきなのだろうか？」

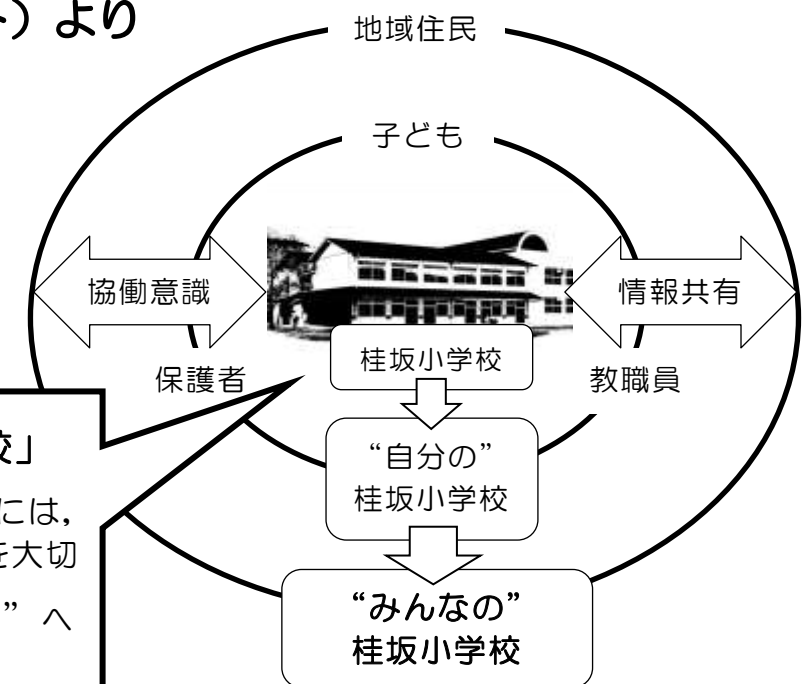
子どもたちが本を見つけやすい環境をつくっていききたい。
図書ボランティアの方や教職員の力で図書室が良い環境になってきている。

★改善に向けて⇒

- ・図書だよりのさらなる充実・活用。
- ・参観日にあわせて図書室見学を実施。

「みんなでつくる みんなの桂坂小学校」

桂坂小学校をよりよい学校に“仕立てていく”には、みなさんの力が必要です。情報共有と協働意識を大切にして、桂坂小学校が“ある”から“つくる”へシフトチェンジ！



今回いただきました貴重なご意見を受けまして、すべての子どもが楽しいと思える学校の実現を目指して今後も教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。どうぞ保護者や地域の皆様もご理解ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。